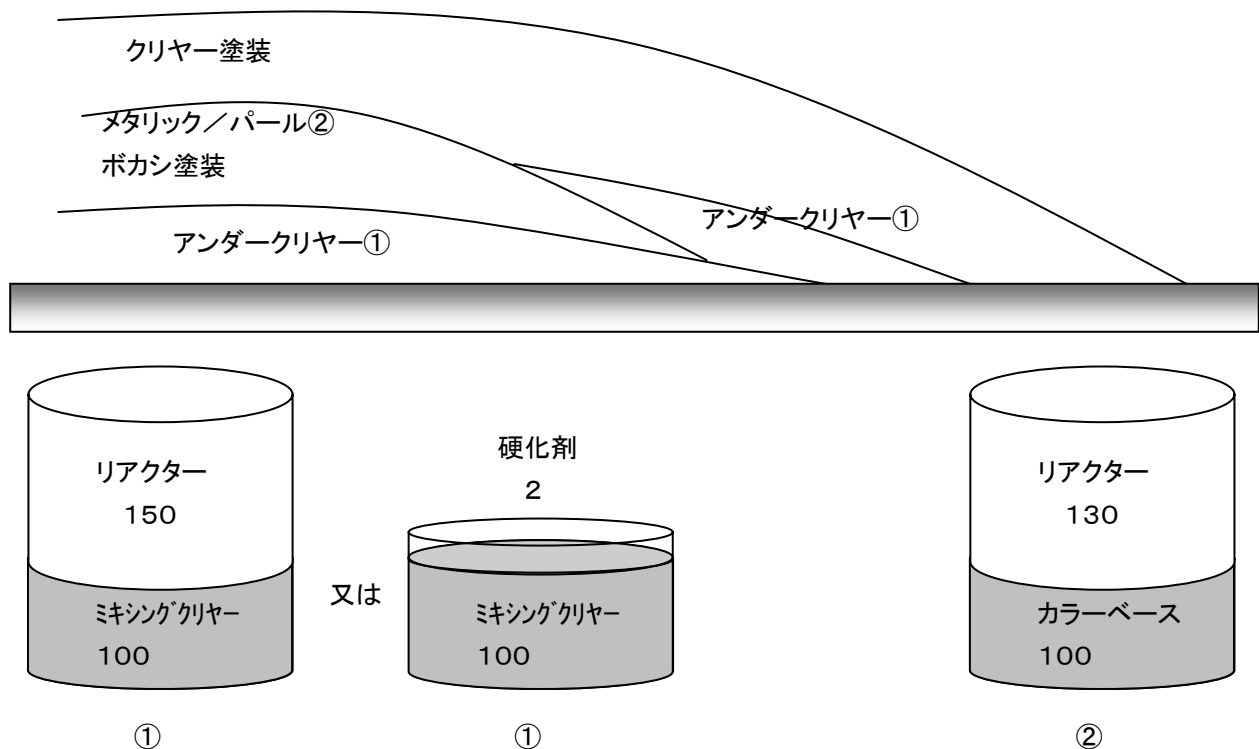


情報名:ミラノ 2K シルバー系 塗色 の補修 のポイント

1. A 工法 : アンダークリヤーを下吹きする方法

アンダークリヤーには【ボカシ剤標準型又は S 型】又は【ミキシングクリヤー】のいずれかを使用します。
ミキシングクリヤーの希釈は設定温度よりやや遅めのリアクターを使用し、150%希釈します。

1. カラーベースをボカシ塗装する範囲よりやや広めにアンダークリヤー①を塗装します。
2. ①のアンダークリヤーが乾燥しないうちにアンダークリヤーを塗装した内側でカラーベース②を捨て塗ります。
3. カラーベース②を下地(プラサフ又は旧塗膜)が隠蔽するまで、数回に分けてボカシ塗装します。このときボカシ際は同じところで終わらずに、必ず前回塗装した際より 5cm 以上広く塗装します。
4. カラーベースの最終のボカシ際にもう一度アンダークリヤー①を 2~3 回塗装し、ボカシ際のミストを馴染ませます。
5. 十分にセッティングをとり、クリヤー塗装します。

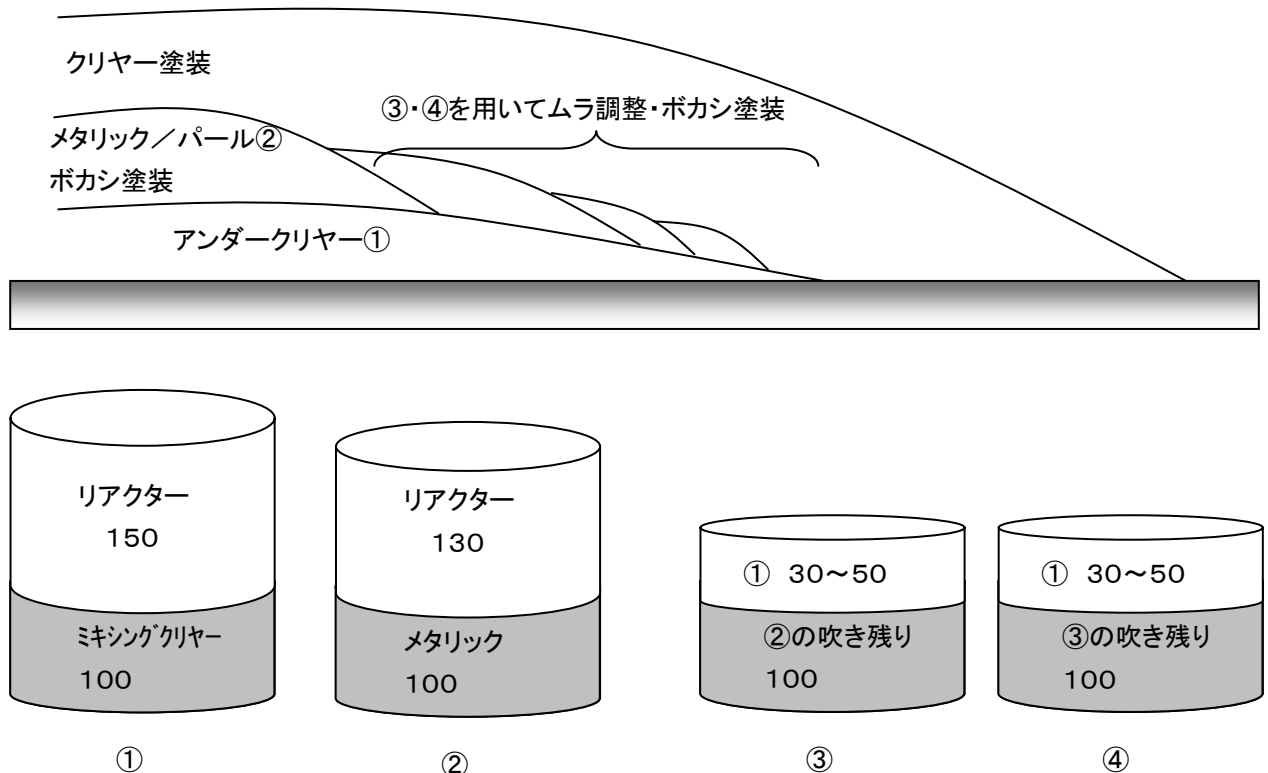


<A 工法のポイント>

- ・アンダークリヤーのパック 530 スプレーガン調整値
エア圧 0.1~0.12MPa 吐出量 4~5 目盛
- ・ボカシ際のナジミが悪く感じる場合は、カラーベースの塗装が終わった後に、再度アンダークリヤーを塗装して下さい。その際、吐出量・エア圧は守ってください。
- ・ワンボックスカーなどの側面ボカシ塗装などの広い面積のボカシ塗装では、カラーベースとアンダークリヤーを交互(サンドイッチ工法)に塗装する工法は、特に夏場のボカシ際の黒ズミの改善に非常に有効です。繰り返しの 2 回目以降は上記のスプレー条件でガン距離を少し離し気味に霧吹き塗装する事がポイントです。

2. B工法:ボカシ及びメタリック調整にミキシングクリヤーを混合使用する方法

- 1.ミキシングクリヤー：リアクター = 100 : 150 に調合し、ボカシ際に塗装します。(下図①)
- 2.調色した塗料をリアクター130%で希釈し(下図②)、ボカシ塗装を行う。(カラーベースのボカシ塗装の要領は A 工法と同じです)
- 3.②の塗料に①を 30~50%入れ(下図③・④)、2~3 回でムラ調整とボカシ塗装をします。



<B工法のポイント>

- ・クリヤー塗装までのセッティングは充分にとり(充分に乾燥させてから)クリヤー塗装します。
- ・ミキシングクリヤーのリアクター希釈は 100~200%まで可能です。ほとんどの塗色では 100~150% です。ベース管感を荒く(正面を荒く・スカシに光輝性を強く)する場合は、上記の③のボカシ塗装の塗料を用いて大きくムラ取りをする要領で数回塗装します。
- ・カラーベースのミキシングクリヤーを最初から混合し、微調色した後、ニゴンボカシ塗装もできます。この場合はトマリが良く、メタリック、パールが多く配合されている塗色に限定されます。
この場合、混合する割合は
(調色塗料 100 + ミキシングクリヤー 10~50) 合計に対して、リアクター130%希釈です。